

平成 27 年度 事業計画書

I 概況

1. 入館者数 100,000人

平成26年度は入館者数増を図るため、プロ野球80周年記念事業の一環としてNPB、選手会と協力して12球団の現役選手来館、また新入団選手の研修に博物館見学を組み込んでいただくなど、そして東京オリンピック野球競技復活に向けてのトークショーの開催と、新企画を実施して積極的な話題作りに努めましたが、前年に開催されたWBC、日本シリーズが無かったこと、長嶋茂雄氏の国民栄誉賞受賞記念品の「金バット」の展示効果が薄れたこともあり、最終的には、目標値10万人に対して4%減の約96千人になる見通しです。

平成27年度は、さらにNPB、アマチュア各団体、東京ドームとの連携を深め、展示内容のさらなる充実、各種イベント策を講じて、入館者数100,000人を目指してまいります。

2. 野球殿堂

今年の野球殿堂入りが決定した古田敦也氏の表彰式を、7月17日（金）に東京ドームで開催されるオールスター第1戦で行います。また、特別表彰の故・林和男氏と故・村山龍平氏の表彰式につきましては、現在検討中であります。

恒例通り、表彰式終了後に、顕彰者ゆかりの品々を展示する「殿堂入り特別展」を展示ホールにて開催いたします。

3. 公益法人移行後の取り組み

「公益財団法人」として3年目を迎え、順調に推移していますが、内閣府による監査も視野に入れ、各種規程の見直しと整備を行い、制度に則ったさらなる内部体制の強化を図ってまいります。

4. ホームページの充実と資料の活用

平成26年度の当館ホームページへのアクセス件数は、前年に引き続き200万件を超えると予想されます。今後も、当館にとって有力な媒体として捉え、タイムリーな更新を行い、コンテンツの充実を図るなど、ファンの期待に応えてまいります。また、「プロ野球の歩み」の映像資料のリニューアルを始めとして、映像を媒体とした新たな展示方法の導入、そして図書室では新スキャナーによる利用頻度の高い戦前の書籍を中心に電子化を行い、資料の保存と利便性の向上を図ってまいります。

5. 維持会員数の拡大と制度の充実

維持会員加入を促進するため、会員制度の見直しを図り、各種特典の充実と積極的な案内活動を行います。

II 館内活動

【収 集】

< 図書室 >

- (1) プロや高校、大学、社会人、軟式、女子野球等の資料を収集（購入・寄贈）する。
- (2) 野球に関する外国語の書籍・雑誌を収集する。
- (3) 野球漫画を収集する。

< 学芸員室（展示資料） >

- (1) プロ野球、アマチュア野球を通じて、顕著な記録に関する資料やタイムリーで話題性のある資料を積極的に収集する。
- (2) プロ野球 Today の各球団コーナーを 2015 年シーズンにふさわしく更新するため、各球団に協力を依頼し、2014 年に活躍した現役選手の用具、各球団監督のサイン色紙（キャッチフレーズ入り）を収集する。
- (3) 2015 年度の両リーグ MVP、新人王のサインボール、色紙を収集する。
- (4) 2015 年オールスターゲーム、2015 年日本シリーズのビデオを制作する。
- (5) 1988～2014 年のプロ野球の歴史を紹介する映像を制作する。
- (6) 野球殿堂入りの人々の中で、プロ野球公式戦 1 軍記録のある方々の紹介映像を制作する。
- (7) 侍ジャパン 8 代表のサイン色紙、集合写真等を収集する。

【整理・保管・保存】

< 図書室 >

- (1) 図書室内の整理を行い、分類別の配架を徹底する。
- (2) 複本を整理するスペースを確保する。
- (3) A2 対応スキャナーで、明治時代の資料や各連盟が発行している公式の資料などを電子化する。
- (4) スプリンクラー対策のため、セミエアタイトのロッカーや、はっ水加工した中性紙のボックスを継続して設置する。
- (5) 酸化している資料の脱酸処理を行う。
- (6) 図書室の開架部分の資料を見直し、資料を入れ替える。
- (7) 博物館の入口や展示室などで来館者を図書室へ誘導するための看板等を設置する。

(8) 電子化した資料を PC など利用者へ提供を行う。

< 学芸員室 (展示資料) >

(1) 分類別収蔵を徹底し、収蔵環境向上に努める。

(2) 収蔵資料の内、特に写真資料のデジタル化を進め、デジタルライブラリーとして順次公開する。

【展示・イベント】

< 特別展・企画展 >

(1) 企画展「こどもの遊びと野球」2月3日(火)～5月17日(日)

(2) 企画展「全日本大学野球選手権大会展」5月26日(火)～6月21日(日)

(3) 企画展「都市対抗野球展」7月4日(土)～7月29日(水)

会場：野球殿堂ホール

(4) 夏休みイベント「野球で自由研究！」7月18日(土)～8月31日(月)

会場：イベントホール

付帯イベントとして、ミズノ(株)の協力によりバット製作実演、親子グラブ製作教室を実施する。

(5) 高校野球 100 周年記念展「高校野球と野球殿堂」6月29日(月)～9月6日(日)

(6) 企画展「日本シリーズの歴史」9月12日(土)～11月8日(日)

(7) 企画展「日本野球ポスター展 2015」11月17日(火)～2016年1月17日(日)

(8) 企画展「野球報道写真展」2016年1月26日(火)～3月13日(日)

< 常設展 >

(1) 月に一度、5～10点程度を目途に、展示資料の入れ替えを行う。

(2) プロ野球 Today、アマチュアコーナーなどの各記録や写真を更新する。また、アマチュアコーナーの年表、決勝戦スコア一覧パネルのリニューアルを行う。

(3) 26年度に続き、常設展示の主な解説文に英語を追加する。また、各種案内なども英語表記を増やす。

(4) 特に小・中学生に興味を持ってもらえるように、「触れる、動く」体験型の展示など、より楽しく分かりやすい展示を目指してイベントホールや常設展示の見直しを行う。

< コーナー展 >

(1) 館内各所で、ニュース性・話題性のある展示を積極的に行う。

(2) 東京五輪での野球競技実施に向け、日本代表コーナーでの「野球とオリンピック」の特集展示を行う。

< イベント >

- (1) ミズノ バット製作実演 3月27、28日
2015年野球シーズン開幕記念として、ミズノ㈱の協力により実施。
- (2) 子供の日イベント 5月5日
イベントホール「バッターボックス体験」を利用して、小・中学生を対象にしたバッティングコンテストを行う。
- (3) 開館記念日イベント 6月12日
来館者へ記念品プレゼントを行う。
- (4) 夏休みイベント
小・中学生を対象にした「野球で自由研究！」を実施する。
資料やホームページの情報を更新する。
ミニミニ実験やトークショーを充実させる。
- (5) トークショー
殿堂入りのOB選手をはじめ、野球界の方々の協力を得て、いろいろな形でトークショーを開催。
- (6) 展示解説ツアー
昨年につき開催日時をホームページなどで告知して開催。

【調査・研究】

- (1) 企画展・特別展開催に際し、それぞれのテーマについて情報を収集する。
- (2) 引き続き19世紀の日本野球の調査研究を続ける。
- (3) 自由研究に対応する資料を作成するため、調査研究を行う。

【学校教育との連携】

- (1) 学芸員課程の履修学生を、夏休み期間中に実習生として受入れる。また、夏季の実習とは別に、夏休み以外の期間にインターンシップ型実習生を受入れる。

【普及・広報活動】

- (1) 企画展やイベント情報を積極的にテレビ、ラジオ、新聞、情報誌などにリリースし、マスコミへの広報に努める。
- (2) ホームページで企画展やイベント情報を紹介するとともに、収蔵品や蔵書紹介の内容をさらに充実させる。
- (3) 当館を紹介する記事、番組の取材や撮影に積極的に協力してPRに努める。
- (4) NPB、アマチュア野球関係団体に働き掛け、当館を利用したイベント、記者会見等を積極的に誘致し、館内の有効利用に努める。また、休館日や閉館後を利用したイベントの企画を研究する。
- (5) 旅行代理店、学校等に働きかけ、修学旅行や生涯学習など学習ニーズの高まりに対して、受け入れを推進し、質的、量的に積極的に対応する。

- (6) 当館季刊情報誌「ニューズレター」の内容の充実を図り、PR広報誌として役立てる。
- (7) 新年度のパンフレットを作製し、来館者等に配布する。
- (8) 維持会員の募集を積極的に促進する。

【大会・会議への参加】

- (1) 日本博物館協会や日本図書館協会等と連携を保ち、情報交換のため各大会、会議に参加する。

【建物設備の維持管理】

- (1) 空調設備の室外機、室内機の保守点検を年4回専門業者に委託して維持管理につとめる。
- (2) 映像設備のランプ交換を年1回専門業者に委託して行う。
- (3) 消防設備の保守点検を年2回行う。
- (4) 自動扉の点検を年3回専門業者に委託して行う。
- (5) エレベーターの保守点検を年4回専門業者に委託して行う。
- (6) 入館者用発券機のロール紙を発注する。

【収益事業】

- (1) 統一球、アオダモ製品、当館オリジナル商品の販売とともに、新商品の開発・販売を行う。
- (2) 古田敦也氏の野球殿堂入り記念サインボールをNPBオンラインショップで販売する。
- (3) 「野球殿堂本2015」を販売する。

Ⅲ 館外活動

- (1) 野球界関連の団体、公共団体、類縁機関などの展覧会やイベントに際し、資料貸出だけではなく、企画内容に関する相談にも対応するなど積極的に協力し、野球の底辺拡大に努めるとともに、野球殿堂博物館の認知度を高める。

Ⅳ 野球殿堂関連の事業

- (1) 彫刻家松田光司氏に野球殿堂入り3氏のレリーフを発注、受領する。

- (2) オールスター戦主催者並びに関係者と事前に打ち合わせをして、競技者表彰の古田敦也氏、故・林和男氏の表彰式を7月17日(金)に東京ドームで行われるオールスター第1戦の試合開始前に開催する。また、特別表彰の故・村山龍平氏の表彰式については、現在検討中である。
- (3) 野球殿堂入り特別記念展を3氏の写真パネル、借用資料、当館収蔵品を展示し夏休み期間を中心に殿堂ホールで開催する。
- (4) 競技者表彰委員会委員の異動調査表を各社代表に郵送し調査を行う。
- (5) 平成28年の野球殿堂入り有資格者の資料を作成する。
- (6) 競技者表彰委員会の幹事による候補者選考委員会を東京と大阪で開催し、次年度の候補者を決定する。
- (7) 特別表彰委員会候補者選考委員会を開催し、次年度の候補者を決定する。
- (8) 競技者表彰委員会は幹事、代表委員に投票用紙を郵送し、各社の委員に配布していただき、記名投票で期限を決めて回収を行う。
- (9) 特別表彰委員に事前に投票用資料を郵送する。
- (10) 競技者表彰委員の東京地区幹事にお集まりいただき、両部門の開票作業を当館内で行う。
- (11) 特別表彰委員会の委員にお集まりいただき、野球殿堂入りの投票を行う。
- (12) 両委員会の野球殿堂入り記者発表を当館内で行い、終了後、東京ドームホテルにて懇親会を執り行う。